

触らないで

1. ホタルガの幼虫

ホタルガの成虫は、5～6月と9～10月の2回出現します。頭が赤く、腹が黒いことがホタルに似ているとして命名されました。ホタルには毒があって鳥は食べないため、毒のないホタルガが擬態しているといわれます。しかし、ホタルは夜行性で鳥との遭遇は少なく、ホタルガは昼間ヒラヒラと頼りなく飛んでいますから擬態説は怪しくなります。



ホタルガの幼虫はヒサカキ(倉吉でいうシブ)を食べます。こちらの毛に毒は無いのですが、分泌液には毒があり、触るとかぶれます。皮膚炎を起すので触らないことが肝要です。接触後10時間程度で軽い発赤ができて痒くなり、2日くらい続きます。この幼虫の黒と黄色の模様はスズメバチと同様の警戒色で、近寄ると警告している

のです。集団でいることが多く、葉の上面にいますのでよく分ります。ヒサカキの葉肉が食べられて茶色になっている葉には要注意です。デザインとしてはコバルト部分がすっきり洗練されていて、観察に値すると思います。

2. チヂミザサの穂

遊歩道の脇、あるいは草地に生える草です。茎は枝分かれしながら地面を這い、秋になると先端が上を向いて30cmくらいの穂を伸ばします。名称の由来は、



茎に付く葉がササの葉に似ていて、葉の基部から先端に向けて平行に表裏交互で歪んでいることが縮み模様に見えるからです。場所によっては一面に生えます。



穂にはまばらに小穂が出て種子が付きますが、この小穂からは3本の長い毛(芒:のげ)が生えています。芒の色のため、穂は紫色に見えます。触らないで済むだろうと甘くみて生育地に踏み込むと、後が大変です。ズボンに小穂が引っ付いているのです。こすったくらいでは取れません。種は簡単に外れるため、一つひとつ指先で除いても毛の部分は残ってしまいます。指先でつまめない毛には、粘液が付いているのです。この粘着力は何かに使えそうな気がします。機械的にくっ付いて種子を運ばせるものより、効率が良いかもしれません。

